

# 市民協働マニュアル

[ 初 版 ]

協働とは、さまざまな立場の者同士が、同じ目的に向かって互いに責任をもち、共に働くこと。また、このまちが住みよいまちとなるようみんなで考えるための、ひとつの「方法」

協働って  
にゃんだ？



平成23年3月  
長岡京市

# 市民と行政

## お互いが使いやすいマニュアル

### ◎合言葉は

- 「使いやすいマニュアル」
- 「市民と行政双方に役立つマニュアル」

### ◎内容は

- 協働のパートナーとは
- 協働を進める際の心構えや手順

### ◎こんな人に、こんなときに読んでもらえたら、という思いで作成しました

- 👉 協働って、なに？
- 👉 市民活動やボランティアは何から始めたらいいの？
- 👉 市民活動に行き詰まりを感じている人
- 👉 市民活動と協働はどんな関係があるの？
- 👉 市民活動や行政事業に協働を取り入れることはできるのかな？
- 👉 協働のむずかしさを感じている人
- 👉 もっとよい形で協働を進めたい人

このマニュアルは、読む人が知りたいところから読み始められ、  
知りたいところだけを読むこともできます。

# 目次

はじめに.....	1
1章 あれも協働！？これも協働！？.....	5
事業名：みどりのサポーター制度.....	7
事業名：学校支援ボランティア.....	9
事業名：配食活動協働プラットフォーム.....	11
事業名：長岡京ガラシャ祭の開催.....	13
事業名：西山森林整備推進協議会.....	15
事業名：児童虐待予防3年の歩みキャンペーン.....	17
2章 協働に役立つ情報を手に入れよう.....	19
情報を収集&発信したい.....	19
いろいろ相談したい.....	21
後援してほしい.....	23
助成してほしい.....	23
活動する場所がほしい.....	25
いざというときのために.....	25
3章 協働の実践編.....	26
3-1 実践に向けての心構え&実践の流れ.....	26
協働の流れ（市民が協働したい場合）.....	29
協働の流れ（行政が協働したい場合・既存事業の見直し編）.....	30
協働の流れ（市民から行政に協働したい提案があった場合）.....	31
3-2 協働の視点で事業を仕分ける.....	32
3-3 協働のパートナーを選び、ルールを決める.....	33
4章 困ったことが起こりました.....	35
資料編.....	36
リスクチェックシート.....	37
協働提案シート（市民向け）.....	38
協働適正チェックシート（市民向け）.....	39
協働を実施するときの確認シート（市民・行政共通）.....	40
協働を実施するときのスケジュール～進行管理～（市民・行政共通）.....	41
協働提案シート（行政向け）.....	42
協働適性チェックシート（行政向け）.....	43
おわりに.....	44

# はじめに

---

## ■協働は、あなたのそばにも

公民館やバンビオを始め、市内のあちこちで行われているさまざまなイベントや学習会。なにげなく参加したり、いつか行ってみたいなと気になっていたりするものがあるのではないのでしょうか。それって、市がやっている行事なの？それともNPOの活動なの？と疑問に思ったことはありませんか？

最近、イベントを中心に、市民と行政などが「協働」で実施しているものが増えてきました。例えば「●●実行委員会」主催の催し。「長岡京市が後援」している講演会。「▲▲交付金」を活用したシンポジウム。どこかでみたことはありませんか？

## ■協働って？と思った人！

### 市民・団体・行政がつながる意味を考えるチャンスです

複数の団体や人が集まって何か行動を起こすとき、お互いの立場や特性を理解・尊重しながら協力することにより、それぞれが単独で実施するよりも、効果的・効率的に事業を行える場合があります。

公共的な分野のサービスについて言えば、行政が単独で行うよりも、市民や団体とつながることで、地域への波及効果も大きいと思われれます。その結果、生み出される相乗効果により「新しい公共」といわれる領域が広がり、まち全体のサービスの質の向上が期待されます。

## ■協働の目的は、市民と行政のあり方を変えていくこと

協働の大きな目的は、市民が主役のまちづくりです。これまでの行政主導によるまちづくりではなく、さまざまな主体が、対等な関係で、お互いの立場を理解し、尊重し合い、共通の目的を持って、それぞれの主体が持つ資源を活用しながらまちづくりを進めることです。

戦後60年を振り返ると、行政主導で事業を決めて行う、または住民が行政に要望し行政が事業を行うという、行政対住民という関係が出来てしまったことは事実です。また、「物質的に豊かになったけれども、なにか大切なものを失ってきたのではないか」と考えさせられる近年のさまざまな問題は、人と人とのつながりが弱くなってきたことが原因のひとつといえます。

これらの問題は、これまでの行政システムでは対応できないものも多く、市民と行政の

あり方や関係性を変えていくことが求められています。地域の課題は地域で暮らす人たちが感じたこと、考えたことによって解決に向けた取り組みをしていくことが重要です。多様化、高度化した市民ニーズにきめ細かく応えるには、市民と行政が協働して作っていく新たな公共の考えが必要となっています。

#### 【コラム】協働の歴史は約40年

神戸市などを中心に行政と市民の協働によるまちづくりが進められてきたのは1970年代のこと。そして、協働の意義が再確認される契機となったのは、1995年に起こった「阪神・淡路大震災」でした。この時は、警察や消防機関による救助が追いつかず、要救助者3万5000人のうち、2万7000人は自力または隣人の力を得て救助されたのです。この震災をきっかけに、神戸市では、地域全体の自律と連帯が必要だ！という認識が拡がり、また、多くの市町村にも、市民が行政とともに地域の問題解決に取り組む「協働のまちづくり」が波及していきました。



### ■協働の定義は、多様な主体が強みを活かすこと

平成22年3月に策定した「市民協働のまちづくり指針」に記した協働の定義では、ポイントは次の二つです。

○主語（だれが）は、『異なる多様な主体』です

○述語（何を）は、『特性（強み）を活かす』です

色々な人や団体が、各々勝手に動き、自分の特性（強み）だけを活かすことでは、協働はうまくいかないでしょう。そのため、次の4つを大事にしていく必要があります。

①公共的な分野で

②共通の目的・課題に対して

③責任と役割分担を明確にし

④お互いの連携で

4つのことを大切にすることで、1+1を2よりも大きくする力になっていきます。

### ■協働にオマケがあるって知っていましたか？

さらに協働がうまくいくと、なんとオマケもついてきます。

例えば、まちでの困りごとに敏感な市民が、ある困りごとを行政に頼る前に自分で解決

しようと考えた場合、それはきっと、行政だけに任せるより「いい解決法」になることでしょう。また、考えることを通じてまちへの愛着が深まり、このまちが「もっと好きなまち」「ここが自分のまち」となっていくことでしょう。

一方で、行政が「協働」をキーワードに市民とともに事業を展開すれば、市民の声が「よく聞こえる」ようになり、市民の声に「応えたい気持ち」が行動となっていきます。これらはきっと、市民と行政を信頼の絆で結ぶことになります。

#### 【コラム】協働することが目的？

「協働がこれからの社会づくりのキーワード」と言われて数年。ズバリ、協働そのものが「目的」になっていませんか？！

協働って、簡単にいえばつながり合うこと。でも、つながること自体は目的ではなく、他の目的のための手段です。「何のためにつながるか」そこを忘れてしまうのは、協働の理念に反します。また「何のために」が自分の都合だけになってしまうことも、協働の理念に反します。協働相手は、あなたの目的（例えば、経費削減とか）を達成する道具ではありません。

お互いが、どうしたら対等によりよく支え合い、お互いの目的を達成できるか。それを考えることが、社会全体のメリットにつながっているか。

協働の究極のコツは、『思いやりの心』かもしれませんね。



## ■あなたが何かしてみたいと思ったら

個人で活動するのか、団体に入って活動するのか、あなたがしたいと思っていることがより実現できる方法を探しましょう。

### 個人で活動するには

ボランティア活動など個人でできることを個人で行うことは、市民活動の原点です。ひとりでするので気楽にできると感じる一方、活動の継続性という点や無理をしすぎるといふ限界もあります。

個人ボランティアの募集については、市ホームページをご覧ください。

長岡京市ホームページ → ボランティア情報

#### 団体に入るには

長岡京市には、様々な分野で活動する団体があります。正確な数は把握できていませんが、市民活動サポートセンターには100を超える団体が登録しています。

自分の活動目的に合う団体を探すには、市民活動サポートセンター（21ページ）をご利用ください。

#### 団体を立ち上げるには

自分がしてみたいと思う活動の目的や条件に合致する団体が見つからなければ、自分で、または仲間と立ち上げるという方法もあります。

立ち上げるときの相談にも、市民活動サポートセンター（21ページ）をご利用ください。